

NCPタイムズ

Nihon CellonPack Times

発行所
日本セロンパック株式会社
大阪本社
〒540-0022
大阪市中央区糸屋町1-4-7
TEL.06-6941-8851
FAX.06-6943-8855

NCP
第4号
2011.9.15発行
Times

トピックス1,2,3 TOPIX

原料価格高騰や災害の影響で注目される海外フィルム 海外フィルムについての近況報告



近年、国内フィルムの価格高騰により、海外フィルムの輸入量が増加して来ていますがメーカーや品種によっては使用出来るものと出来ないものがあります。なかでもPETフィルムは早くから国内の各コンバーターに採用されており、品質についても国内品と比較して遜色なく、広く認知をされています。価格はここ一年で原料価格が世界的に高騰し、国内価格と変わらない状況ですが震災以降、国内メーカーの出荷量が今だに安定していないため、今後もPETフィルムについては引き続き海外からの輸入が継続されると思われます。弊社で輸入しておりますCPP蒸着フィルムは、国内とは蒸着方法が異なるため、国内品の物性とは大きな開きがあります。価格的なメリットがありますが、品質面においてバリア性がないので意匠性のみを求められる商品に対して採用をいただいています。今後の品質向上と安定供給を目指し、メーカーとの取り組みを継続しています。かねてからアルミ箔の輸入にチャレンジしてまいりましたが、品質や補償体勢に問題があり一時輸入を断念しておりました。しかし今年新たなメーカーとの取り組みを始め、継続購入を目指し現在ロングランテストを行っております。その他汎用のOPP・CPPフィルムにつきましても東日本大震災の影響を受け国内メーカーからの入手が困難を極めたため、一部海外から緊急輸入し品質に対する評価を行なっております。在庫負担や国内輸送費などのコスト面、また物性や品質面でのメリットやデメリットなど、問題点はありますが海外フィルムの輸入量は今後も増え続けると思われます。

(生産部・芝孝司)

品質保証について取り組み

今期よりスタートの中期経営計画で生産部の重点課題として品質保証態勢の確立を目指しています。品質管理基準書に基づく品質チェックリストを基に、協力工場各社へ予告検証などを実施しています。営業部や総務人事部のメンバーを含むプロジェクトチームも立ち上げ取り組んでいます。改めて思うことは協力工場各社と品質保証に対するベクトルを一致させることは、容易ではないということです。弊社の期待要求項目を具体的にお示しし、全ての項目で期待水準以上を目指していただくためのサポートを粘り強く続けていきたいと思ひます。その為には、今まで以上に対話を増やしていかなければならないと痛切に感じています。また、弊社の自己チェックも行い、現状を分析し、改善すべきところは速やかに改善し、自社の態勢をしっかり固めることが重要課題であると思ひます。その点を早く完成させるように全員で取り組んでいきたいです。

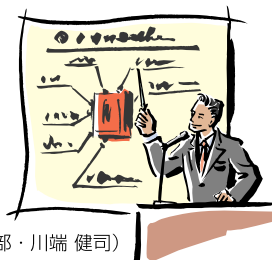
(生産部・尾崎 良一)



包装管理士講座を受講して

この度、第46期包装管理士講座を受講いたしました。6月1日～3日の豊橋でのオリエンテーションには全国から408名が一同に集まった光景にびっくりさせられました。業種も段ボール・フィルム・食品メーカー等多様で包装に携わる仕事の多さに改めて驚かされました。本講座には材料教科と専門教科があり材料教科は紙器・段ボール・プラスチックフィルム・プラスチック容器・ガラス瓶・金属缶の材料・製造工程等学びました。その事により改めてそれぞれの長所・短所を理解する事が出来ました。専門教科では、もっと深く踏み込んだ内容でかなり難しく感じました。包装論文のテーマは「かつおミニパックのリデュース」としました。データ等は、弊社の品質保証課長や仕入先や加工先に助言を頂きなんとかギリギリ期限内に間に合わす事が出来ました。9月に筆記試験・面接がありそれをクリアすれば包装管理士になれるとの事でした。9月に向けて勉強に励み包装管理士になれるようがんばりたいと思ひます。

(営業部・川端 健司)



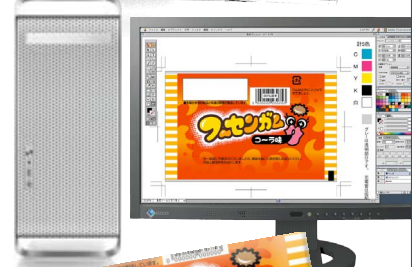
デザイン

DESIGN

弊社デザイン室の御紹介



弊社はデザイン力やプレゼン力の強化をめざし、昨年10月に更なるデザイン室の充実の為、アートプランナーを増員し設備投資も実施いたしました。得意先様から依頼されたテーマを共通題材とし、各アートプランナーが制作した作品を社内プレゼン大会で役職員へプレゼンし、評価結果は社内表彰を実施しています。プレゼン作品は得意先に提案し好評価を頂いております。プレゼン大会を通じデザイン室のクオリティ向上と、弊社のデザイン室の強みをアピールすることで、得意先のニーズにも応えていきたいと考えています。ちなみにこのNCPタイムズもデザイン室でデザインしております。(デザイン室・山田 倫正)



特集 弊社からのご提案事例

今号は、静岡営業所です。

アルミチャック規格袋

健康食品などで多く使われている2サイズを規格袋として販売

- サイズ
- ・100mm×160mm (1ケース3,500枚入り)
 - ・120mm×190mm (1ケース2,500枚入り)



アルミガゼット大袋

採用実績
しいたけ保存用袋

巾 540mm
ピッチ940mm
ガゼット330mm

- サイズ
- ・最大巾 : 1,100mm
 - ・最大GZ巾 : 870mm
 - ・ピッチ : 1,000mm以上も可



(静岡営業部・藤浪 猛)

ちょっとひと休み

クロスワードクイズ

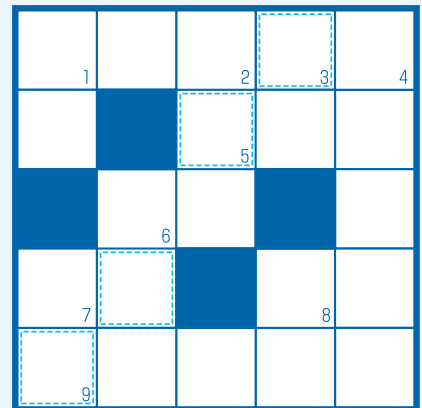
(ホームページ:CROSSWORD PUZZLE +より)

エトのカギ

- 1) 真夏の雑木林で…。
- 5) 本当の気持ち。
- 6) ○○が笑う。…踏ん張りがききません。
- 7) 「○○の威を借る狐」
- 8) 熱帯雨林は「高温○○」
- 9) 白くてプルプルした冷たい食べ物。

タテのカギ

- 1) 容器の口を塞ぎます。
- 2) 黄道星座の第六。
- 3) むらがり。
- 4) アイスクリームはここに。
- 6) 二階建てではありません。
- 7) むだづかい。
- 8) 干支の第五。



[ヒント:7・8月にちなんだ生物です。] (答えは次号に掲載します) 破線付きの枠に入る文字を並べ替えて言葉を作りましょう。

直言直筆

今年は暑かった。例年より約10日早い梅雨明けと電力不足による節電で大なり小なり不満を抱えている人も多かったはず。社内も我が家もエアコンの能力を十二分に発揮できない今日、電力のなかった江戸時代の猛暑、夏バテ対策を調べてみた。人口の密集都市であった江戸では夏バテ防止ドリンクとして甘酒が人気であったらしい。米と麹菌で作る甘酒はブドウ糖を多く含み、ビタミンB1、B2、B6、アミノ酸群など栄養豊富であり俳句の季語になるほど定着していた。土用の丑のうなぎが定着したのも江戸後期らしい。その他、江戸の庶民は夏の暑さをしのぐ方法としては、そうめんやトコロテンなどの涼感のあるものを食べることや、聞く(スズムシ・マツムシ・風鈴)、見る(アサガオ・金魚)、風を感じる(うちわ・屋形船・納涼床)など、自然をそのまま暑さしのぎに利用し、見たり聞いたり五感で涼感を味わう工夫をこらしていたようだ。季節が移り変わる中、日々の生活に自然環境を味わうという考え方からも、私たち現代人はまだまだ江戸時代から学べることもあるとわかった。

(営業部・酒谷 朗 [参考資料:2011.7.27日本経済新聞])

前号のクロスワード答え



【くしゃなげ】

